

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年7月31日
タイトル	日本一の「くわい」を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年6月26日(木)福山市立新涯小学校5年生138名が、くわい出荷組合の枝広義春組合長のほ場で福山市の特産物である「くわい」の植付け体験をしました。

新涯小学校5年生138名は、学校から新涯町のほ場まで歩いて移動しました。

事前に枝広組合長より「くわい」について授業を受けていて、「くわい」の歴史や栽培方法、植え方などを教えていただいているため、すぐに植付けを始めました。

クラスごとに四つに分かれ、一クラスずつ田んぼの端から入ります。入る時、枝広組合長から「くわい」の種を渡してもらい、それを持って一番奥まで歩いて進み、奥から順番に印の所へ植えていきます。

植え終わったら田んぼの畔に出て帰ってきます。そして、用水路からポンプで水を汲み上げて、泥のついた足や手を洗ってもらいました。

田んぼに入った子ども達は、最初は歓声をあげていましたが、枝広組合長に教えてもらいながら、真剣な顔で植えていました。



芽が出たくわいを一つずつ、丁寧に植えていきます。
うまく植えられるかな。友達が植えるところも気になるよ。



順番に植えていくよ！



用水路の水、気持ちいい！

子ども達に「みんな、くわいの植付けは初めてですか。」聞いたところ、「おじいちゃんのところで植えたことがあるよ。」と言う子どももいて、さすが、新涯町は福山一の「くわい」産地だなと感心しました。

子ども達は、ほ場での植付け体験が終わると、そのまま小学校へ帰り、校庭にあるミニ田んぼにも「くわい」を植付けました。

学校の校庭でも半年間、「くわい」の成長を観察するそうです。

新涯小学校5年生の4人から、「くわい」植付けの感想文が届きました。

「くわいのこと」 吉原愛里さん

6月26日に、枝広さんにくわいのうえかたを教えてくださいました。初めに枝広さんのお話を聞いて次に1組からくわいをうえました。

くわいをうえる時ひさしぶりに田んぼにはいるので少しわくわくドキドキしました。くわいの田んぼにうえるとき、はじめ一步はいった時に少しカエルがいたらどうしようと思いました。

くわいの田んぼにはいったらこけそうで少しこわくて、でも少しほんねではたのしかかったです。いっぱいこけそうになったけど、前の人の背中をたよりにして、前の人をもったのでこけませんでした。

くわいをうえるのが初めてでどうなるのかと思ったけど、くわいのうえかたが分かって、それにすごくてのしかかったです。

この気持ちを六年生になってもわすれません。



「はじめてのクワイ植え」 合田 景くん

ほくは今日のクワイの植えつけで、嬉しかったことが2つあります。

1つ目は、枝広さんにやさしく植えつけのし方を教えてくださいましたことです。

ほくは、クワイのからあげやクワイチップスを食べてきたけど、つくり方を知らなかったので、今日学びました。分からないときは「ここどうするんですか?」ときくと、「こうやってするんだよ」とやさしく教えてくださいました。すごく嬉しかったです。

2つ目は枝広さんの畑のドロのかんしょくです。

ほくは、新涯ようちえんのドロあそびでは、みずぼうそうで畑に入ることができませんでした。だから5年生になってドロのなかに入ったときは、「こういうかんしょくなんだな」と嬉しい気持ちになりました。

ほくは、枝広さんにととても感謝しています。新涯小学校まで来てくださって、図書室でクワイのことを教えてくださいました。おかげでクワイの植えつけも失敗せずできました。

クワイの植えつけが成功したのは、クワイのことをやさしく教えてくださいました枝広さんのおかげだと思います。

クワイのことにもっと興味をもったので、いろいろなクワイのことをもっと調べようと思いました。



「クワイの植え付け」 合田 裕くん

今日、枝広さんからクワイの植え付け方を教えてくださいました。初めて田んぼに入るので、入る前はどんなかんじなのかとかドキドキしていました。

自分のぼんが回って来た時はすごくドキドキしました。入ったかんじは、ゆるゆるして気持ち悪かったけど、なれてきてつめたくて気持ちよかったです。

そして一つ気になったことがあって、赤いのは何だろうと思いました。赤いものは、くわいをどこに植えればいいのかの目印でくわいの間と間を開けて赤い所にくわいを一つ植える目印だと分かりました。

くわいとくわいがくっつきすぎると根っこ根っこがぶつかって育ちにくいことが分かりました。

クワイのことについて、今まで教えてくださいました枝広さんに「ありがとう」の気持ちをこめて植え付けました。

「くわいの話」 牧本愛胡さん

枝広さんのお話で、「なぜくわいはえんぎ物なのか」という事やくわいの歴史など、いろいろな事が分かりました。特に、「くわいには花がある」と枝広さんがおっしゃっていたときは、とてもびっくりしました。この話は一番印象に残ったことなので、わすれる事はないと思います。

わたしの家の近くにもくわい畑があります。いつもはふつうにとおりすぎていましたが、枝広さんのお話を聞いて、くわい畑の前になると「芽がでているかな」とか「花はないかな」と立ち止まっていつも見えています。

この枝広さんの分かりやすい説明で、社会などの教科に役だて、たくさんの人たちに枝広さんのおっしゃったことを伝えていきたいです。

次回のくわいの育て方やお話を楽しみにしています。



植付けから10日ほどして新涯小学校へ行き、校庭の「くわい」を見せていただきました。

植付けの時は、5cmほどしか芽が出ていなかったため水面からほとんど芽が見えなかった「くわい」ですが、ぐんぐん成長し、茎が伸びてかわいい葉が出ていました。



くわいの葉は矢印みたいな形だよ！



芽が伸びて葉も出たよ！

新涯小学校5年生のみんなが、感想文の子ども達と同じような気持ちで「くわい」に関心をもったり、植付けを楽しんでくれたことと思います。子ども達も「くわい」も元気にすくすくと育ててほしいですね。

福山市土地改良区は、「くわい」などの農作物を通じて地域の方々や子ども達と交流を図り、「水土里ネット福山」を多くの方に知っていただけるよう活動してまいります。